



## 参加者アンケートの中から一部抜粋

## 講演会に対して

- ・現実の子どもや親の姿に沿った内容だった。
- ・ビデオの中の生徒達がだんだん変わっていく姿に感動した。焦らず見守ることが大事だと思った。

## 座談会に対して

- ・悩んでいるのは自分だけではない。話を聞いていただけ良かった。
- ・それぞれ大変な思いをされていることがわかって今後も頑張れる、元気をいただいた気がします。

生徒に対して木原さんの授業をしてもらいたいという意見が複数の参加者から出ました。

## ◎生徒の現状 ～高校生全国調査の結果から～

- ・1/4は授業についていけない。  
(1日の平均家庭学習時間 男子35分、女子36分)
- ・1日のケータイ使用時間 男子2.8時間、女子4.2時間
- ・ケータイメール交換が多いほど、リスク行動が多い。(「メール1日に0～5回」を1とした場合、41回以上で、男子は18.7倍、女子は24.1倍「性経験を持ったことがある」生徒が増える。)
- ・家庭の日常会話が少ないほど、リスク行動が多い。(「家族とよく話をする」を1とした場合、「ほとんどか全く話をしない」は、男子は2.7倍、女子は3.6倍「万引きをしたことがある」生徒が多い。)

## ◎WYSH教育の概要

- ・WYSH教育とは、若者の幸せを願う教育の頭文字をとっている。
- ・取り組みは、①自己肯定感の育成 ②安心できる人間関係 ③危険を伝える ④気づきの教育の道筋で進められる。
- ・具体的には、体の教育から生きることの教育を提供する。

平成23年12月17日(土)北星高等学校の多目的室で、午前11時からPTA講演会を行いました。講師の木原雅子さんは、研究者、教育者、保護者という3つの立場から講演をしてくださいました。特に「WYSH教育」という子どもたちが自分の意思で歩き始めるきっかけを作る教育(精神的自立教育)を開発し、様々な状況の子どもたちにオーダーメイドの授業をしておられます。例えば、社会の偏見や複雑な家庭環境などから、将来に具体的な夢も希望も描けない子どもたちには、「守る」というテーマで授業を行います。自分を守る、相手を守る、大切なものを守るという展開で授業が進められ、子どもたちは、かけがえない自分に気付いていくのです。

面接や授業で多くの子どもたちと接してきた木原さんからは、勇気の出る言葉をたくさんいただきました。「回り道をした子は、本当は豊かで厚みのある人生を送っている。その渦中では泣きたいことだらけだが、回り道をしている子は貴重な経験をしている。禁止や指導ばかりでは、結局、子どもは指示待ち人間になってしまう。命と犯罪に関わっていなければ、たとえ失敗しそうでもじっと子どもを見守って欲しい。もし、失敗して落ち込んでいたら、そのときに羽を癒せる港でいて欲しい」

講演後は、木原さんがこれまでに取り組んだ、某高等学校の授業のビデオを見ました。その後、参加者18名が3つのグループに分かれ、座談会をしました。